

平成 30 年度 定例県議会 知事提案事項説明要旨 [抜粋]

平成 30 年 6 月定例県議会

次に、九州新幹線西九州ルート整備について申し上げます。

去る 3 月 3 0 日に開催された与党整備新幹線建設推進プロジェクトチームの検討委員会において、国土交通省から、平成 3 4 年度の対面乗換方式での開業以降の整備のあり方について、フリーゲージトレイン、ミニ新幹線、フル規格それぞれの費用、投資効果、収支採算性などの比較検討結果が報告されました。この報告に対して J R 九州や長崎県は、フル規格を求める趣旨の意見を表明されています。

整備新幹線スキームにより進められてきた西九州ルートは、地元自治体である佐賀県、長崎県を中心とした『合意』があり、それを基本として整備されてきたものであります。このため、佐賀県の意味とは関わりなくフル規格での整備の話が持ち上がっていることに対して大変困惑し、違和感を覚えるものであります。

フル規格での整備は、佐賀県の財政運営に大きく影響する莫大な費用負担を伴うものであり、県民のために取り組んでいる、あるいは今後取り組むべき施策に多大な影響があるものと考えています。

このようなことから、5 月 1 1 日の検討委員会においては、西九州ルートに対する佐賀県の考えとして

- ・西九州ルートの整備は、佐賀県の意味、両県の合意が大前提であること
- ・フル規格での整備は受け入れられないこと
- ・平成 3 4 年度の武雄温泉駅での対面乗換方式による開業と肥前山口 - 武雄温

泉間の全線複線化を確実に実行すること
を申し上げたところです。

また、フル規格での整備には、ルートを選定や、新たに発生する可能性のある
並行在来線などの問題もあります。引き続き、与党検討委員会における議論を注
視するとともに、新たな提案などがあった場合は、県の考えをしっかりと主張し
てまいります。

平成 30 年 9 月定例県議会

次に、九州新幹線西九州ルート整備について申し上げます。

7 月 1 9 日の与党整備新幹線建設推進プロジェクトチームの検討委員会にお
いて、九州新幹線西九州ルートの整備のあり方について、フリーゲージトレイン
の導入断念を含む中間とりまとめが行われました。これを受け、8 月 6 日に与党
検討委員会の山本委員長が来佐され、フリーゲージトレインの導入断念に関す
る国の責任に言及した上で、今後、具体的な検討を行い、佐賀県の意見を聞く形
で検討を深めるため協力願いたい旨の要請がありました。

これに対し、私からは、

- ・元々時速 2 7 0 k m で開発が進められてきたフリーゲージトレインが、今にな
ってその速度では山陽新幹線へ乗り入れられないとされたのは違和感がある
こと
- ・西九州ルートの整備のあり方は短期間で決められる話ではなく、関係者で幅広
く知恵を出し合いながら進めていく必要があること

などを申し上げました。

西九州ルート整備について県の考えに変わりはなく、

- ・佐賀県の意味、佐賀・長崎両県の合意が大前提である
 - ・整備方式に関わらず、合意にないものについてこれ以上の費用負担はできない
 - ・フル規格での整備は受け入れられない
 - ・佐賀県はフルかミニの2つから選択しなければならない立場にはない
- と考えています。引き続き、与党検討委員会における議論を注視するとともに、新たな提案などがあった場合、県の考えをしっかりと主張してまいります。

平成 30 年 11 月定例県議会

次に、九州新幹線西九州ルートについては、平成 3 4 年度の武雄温泉駅での対面乗換方式による開業に向けて整備が進められています。開業を契機に、多くの人が訪れたい地域づくりを進めるため、地域が個々の魅力を磨き上げる自発の取組をしっかりと支援してまいります。なお、開業後の整備のあり方については、与党整備新幹線建設推進プロジェクトチームの検討委員会における議論を注視するとともに、新たな提案などがあった場合、県の考えをしっかりと主張してまいります。

平成 31 年 2 月定例県議会

次に、九州新幹線西九州ルートについて申し上げます。2月6日、建設主体である鉄道・運輸機構は、武雄温泉 - 長崎間の事業費が当初計画の約 5 , 0 0 0 億円から約 6 , 2 0 0 億円に増加するという事業計画の変更を国に申請しました。なお、この申請の中で、肥前山口 - 武雄温泉間の全線複線化について、平成 3 4 年度の暫定開業に向けて関係六者で合意した内容と異なったものとなっており、

関係者には合意したことは守るという姿勢で取り組んでいただきたいと思いますと考えています。県としては、引き続き、安全を大前提にしたコスト縮減とともに、「平成34年度の武雄温泉駅での対面乗換方式による開業」と「肥前山口 - 武雄温泉間の全線複線化」の確実な実現を求めてまいります。また、1月9日に長崎県の中村知事が、1月18日に与党検討委員会の山本委員長が来佐された際には、与党検討委員会で議論されている「平成34年度の開業後の整備のあり方」について意見交換を行いました。その際、私からは、特にフル規格での整備は、佐賀県は財源の問題にとどまらず、在来線、ルート、地域振興など複合的な問題があり受け入れられないことを申し上げました。西九州ルート開業後の整備のあり方に関する本県の考えは、これまでと変わっておりません。引き続き、与党検討委員会における議論を注視するとともに、新たな提案があった場合には、県の考えをしっかりと主張してまいります。

西九州ルートの開業後、特急本数が大幅に減ることになる長崎本線沿線地域においては、駅を起点にした移動手段の充実や観光列車の誘致、地域の魅力の発信など、鉄道や駅を生かして交流を生み出す地域づくりを沿線市町と一緒に進めてまいります。